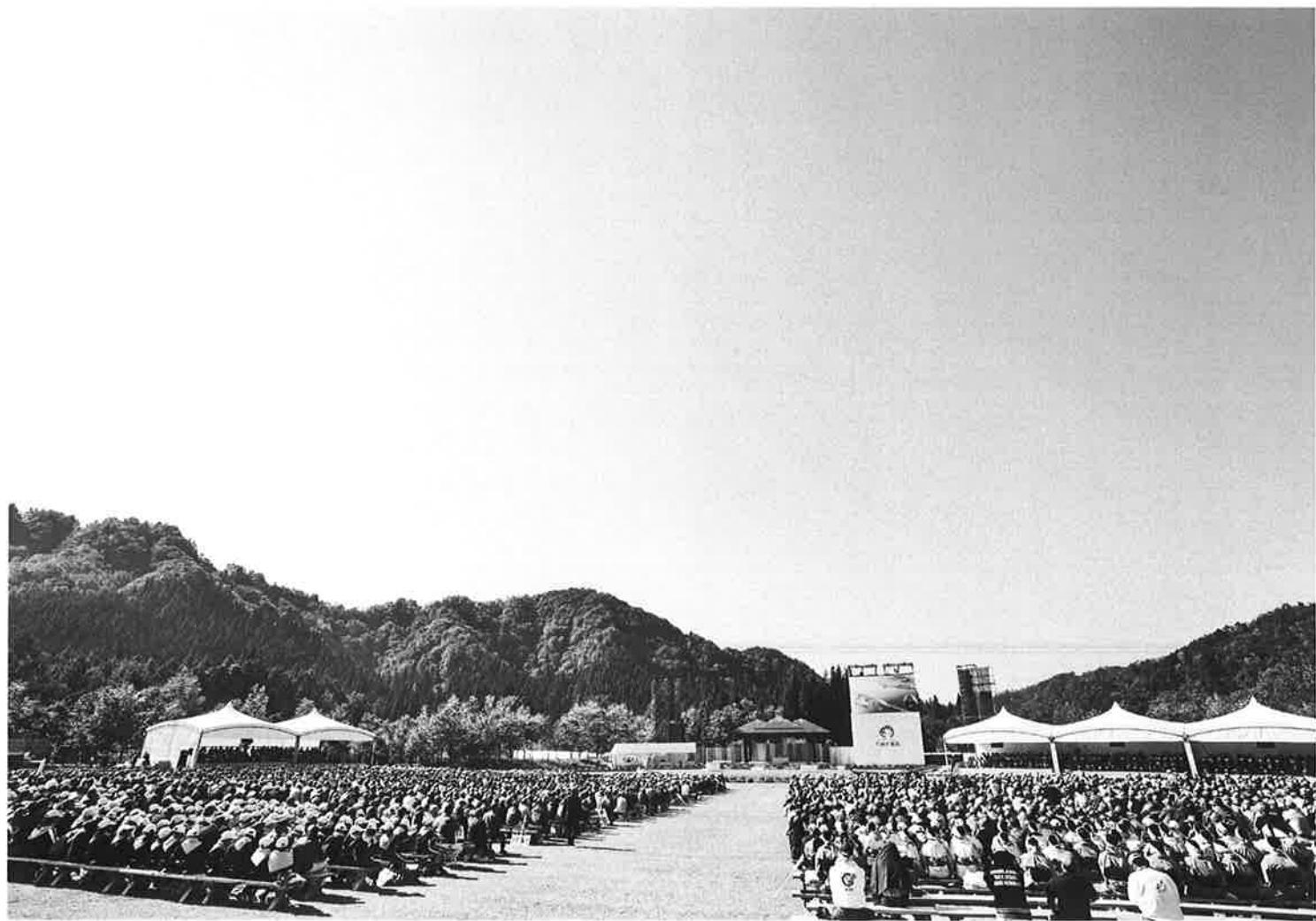


森林やまがた

No.154

2014.11



目 次

第38回全国育樹祭を開催しました………	2
第24回山形県林業まつり……………	3
やまがた美しい森林づくり推進大会開催………	4
平成26年7月梅雨前線豪雨災の 林道灾害査定について……………	5
やまがた絆の森プロジェクト リポート4 ……	6
みどりのページ 手作りの「葉っぱのしおり」でおもてなし／ 平成26年度緑化功労者の表彰について………	8
高校生による緑の募金活動………	9
労働安全衛生規則の改正に伴う 規制強化について……………	10

森林共同施業団地における民国連携による 低コスト作業システム研修会の開催について…	11
普及情報 森林環境学習のための森づくり……………	12
森の人紹介 渡邊正義さん・五十嵐雅樹さん……………	13
県立高校初！木質ペレットボイラー導入……………	14
もがみ薪ステーションの取組みについて……………	15
育林交流集会併催行事……………	16
山形県の古木・名木、公共木造施設……………	17
丸太価格・製材品価格の推移……………	18

第三十八回全国育樹祭を開催しました

第三十八回全国育樹祭は、心配された台風の影響もなく、晴れ渡る秋空の下、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ開催することができました。大会の開催に向けて御尽力いただいた関係者の皆様、御協力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

会場で、あるいはテレビ放映でご覧いただいた方も多かつたかと思いますが、今号ではその様子を御報告いたします。

◆プロローグ

地元金山町の稻沢番樂で厳かに始まつたプロローグは、映像プログラムを挟み、華やかな花笠踊りの群舞で式典の幕を開けました。

◆皇太子殿下御着々皇太子殿下のおことば

山形県民歌「最上川」の流れる中、皇太子殿下は吉村知事と緑の少年団の御案内で御着席になりました。国土緑化推進機構副理事長の開会のことばの後、新庄北高等学校のカラーガード隊の先導で三旗が入場し、続いて団旗を先頭に県内と県外の総勢約五百名の緑の少年団が会場中央を行進しました。

国歌斉唱の後、大会会長と県知事の主催者あいさつ、県議会議長の歓迎のことばと続き、皇太子殿下からは、林業関係者のほかボランティアや企業などによる森林整備活動の輪が広がりを見せ、県民全体で支える森づくり運動が展開されていることについて、大変うれしく思うとのおことばを頂戴しました。

◆緑化功労者の表彰～みどりの贈呈

本県からは、「みどりの奨励賞」に明安小学校みどりの少年団、「全国育樹活動コンクール」農林水産大臣賞に橋本健一さん、同国土緑化推進機構理事長賞に㈱もがみ木質エネルギー、「ふれあいの森林づくり優良市町村」国土緑化推進機構会長賞に飯豊町、「山形県緑化等功労者」に四十七個人、三十七団体が選ばれ、代表して橋本健一さんと、三英クラフト会長の岸三郎兵衛さんが登壇されました。

みどりの贈呈では、福島県・栃木県・兵庫県・熊本県から参加してくれた少年団の皆さんに、県内の緑の少年団が大切に育てた苗木を贈呈しました。

◆皇太子殿下のお手入れ

村山産業高校の生徒と緑の少年団の子どもたちの介添えで、天皇皇后両陛下のお手植え木に施肥していました。その後、介添えの皆さん一人ひとりにお声掛けをされた御様子が印象に残っている方も多いと思います。

◆緑の少年団活動発表～皇太子殿下御発

明安小学校みどりの少年団（金山町）が、パワーポイントを使いながら、少しだけ緊張した面持ちで（当然ですね）、はつきりとわかりやすく、活動の様子を発表してくれました。

◆結びに

そしてメイントーマアトラクションとしてメインテーマアトラクション。出羽三山神社山伏のほら貝の高らかな響きで幕を開け、俳優の佐藤正宏氏演じる松尾芭蕉と、同じく俳優の渡部紘士氏演じる弟子の曾良の掛け合いに、最後はチエリスト増川大輔氏の伴奏による新庄市立沼田小学校合唱部の独唱から「花が咲く」のリレーコーラスへと続き、会場全体が音楽に包まれ感動のうちに終りました。合間に朗々と響きわたる

第三十八回全国育樹祭は、本当にたくさんの皆様のお力により成功させることができました。事務局一同、深い感謝の思いでいっぱいです。心からお礼申し上げます。

然と文化に思いを馳せて、豊かな森林を未来へ引き継いでいくことの大切さを表現し、東北の絆や大震災からの復興への思いを印象づけることができたものと思います。

メインテーマアトラクションの後は、林業士の菊地一郎さんと森林ボランティアの横山あずささんによる誓いのことばに続いて大会宣言、第

第三十九回全国育樹祭を開催する岐阜県知事によるあいさつを経て、金山町長による閉会の言葉で締めくくられました。

〔県みどり自然課〕

第24回山形県林業まつり

今年も大盛況でした!



県民の皆様に森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第24回山形県林業まつりが十月二十五・二十六日の二日間、天童市の山形県総合運動公園駐車場内特設会場において開催されました。

また、今年も「第六十四回農林水産祭」として、「林業まつり」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各展示ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売をはじめ大人から子供まで参加できる楽しいイベントが行われ、あちらこちらで長蛇の列ができました。

二十五日正午からは、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として、細谷副知事による開会宣言、主催者による丸太カットが行われ、その後、民俗文化サークルの四方山会による「花笠踊り」が会場を賑わし、盛大に開会しました。

「NPOやまがたの木・住環境共生ネットワーク」による餅まきや恒例の丸太切り競争では、お子さんから大人まで慣れないノコギリと格闘

今年は、十月十二日に第三十八回全国育樹祭が行われたことから、例年よりも遅い開催日となり、天候が心配されました。二日間とも秋晴れに恵まれ、来場者数は昨年よりも多い三万五千人となるなど大盛況となりました。



県産きのこP・Rコーナー

し、幼児積木競争や青空木工教室でも楽しそうに木に触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらうことができました。また、今年は、県産木材を使用した迫力の住宅構造躯体が多数展示され、県産木材を見て触れて、木の良さを、より住宅空間をイメージしながら体感していただくことができました。

さらに、ステージでは、福島県から「辻フラスクール」が駆けつけ、東日本大震災における山形県民の支援への感謝を込めた「フラダンス」が披露され、皆さんに楽しんでいた



県産木材の耐火部材展示(株)シェルター



木造躯体展示(株)沼澤工務店

林業まつりは、毎回三万人以上の入場者を数える県内でも有数のイベントであり、毎年楽しみにしている方々がたくさんいます。県民の皆様にとつて森林の働きや木材の良さ、森の恵みを改めて見直し、体験することのできるすばらしい機会となる

よう、これからも皆さまの御協力をよろしくお願いします。

やまがた美しい森林づくり推進大会開催

(第61回山形県林材業年次大会)



大会の状況

やまがた美しい森林づくり推進大会開催
(第61回山形県林材業年次大会)
もり

◆大会
十月二十五日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第六十一回山形県林材業年次大会)が、約二五〇名の参加者を得て開催されました。

◆大会
大会は、佐藤大会副会長の開会の言葉で始まり、細野大会会長の主旨説明、大会決議の提案と進められました。

提案事項についての概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。

提案事項については、沖田大会副会長からその概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。

◆大会スローガン
「やまがた森林ノミクス」による林業・木材産業の成長産業化と地域の活性化の推進・災害に強い多様で健全な森林づくりの推進と東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興

◆提案事項
多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取り上げた内容となつております。

一 「やまがた森林ノミクス」の推進
森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の提案がありました。

二 多様で健全な森林づくりの推進
森林の公益的機能を持続的に發揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、次の提案がありました。

三 東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興
東日本大震災による被災地の速やかな復旧・復興はもとより、東北全体の復興を促進するため、次の提案がありました。

四 被災を受けた森林・林業・木材産業の速やかな復旧・復興
森林の公益的機能を持続的に發揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、次の提案がありました。

五 地球温暖化対策税の活用など
森林吸収源対策の財源の確保

また、安部大会副会長から大会決議について提案があり、「やまがた森林ノミクス」の推進、多様で健全な森林づくりの推進、東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興への取組み、予算確保要請について満場一致で決議されました。

続いて、細野副知事(山形県知事代理)、阿部衆議院議員、岸参議院議員、黒川国有林野部長(林野庁長官代理)、小松農林水産常任委員会委員長(県議会議長代理)から祝辞があり、大会は盛会裏に終了しました。

◆大会スローガン
「やまがた森林ノミクス」による林業・木材産業の成長産業化と地域の活性化の推進・災害に強い多様で健全な森林づくりの推進と東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興

◆提案事項
多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取り上げた内容となつております。

一 「やまがた森林ノミクス」の推進
森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の提案がありました。

二 多様で健全な森林づくりの推進
森林の公益的機能を持続的に發揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、次の提案がありました。

三 東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興
東日本大震災による被災地の速やかな復旧・復興はもとより、東北全体の復興を促進するため、次の提案がありました。

四 被災を受けた森林・林業・木材産業の速やかな復旧・復興
森林の公益的機能を持続的に發揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、次の提案がありました。

五 地球温暖化対策税の活用など
森林吸収源対策の財源の確保

◆終わりに
本大会で採択された提案事項について、国・県等に提案・要望してまいります。〔山形県森林協会〕

平成二十六年七月梅雨前線豪雨災の林道灾害査定について

林道灾害査定について

◆はじめに

近年、全国で多くの災害が発生しています。平成二十六年も七月の長野・山形、八月の高知・徳島・京都、そして多くの命が失われた八月下旬の広島の大雨、更には御嶽山の噴火と、例年以上に目を覆いたくなるような人的被害を伴う大きな災害が発生しました。

本県においても、大雨による災害が発生しました。その概要は次のとおりです。

◆七月九日からの大雨災害

七月九日から十日にかけて、置賜地方を中心激しい集中豪雨があり、長井観測所の日雨量は観測史上一位に達するなど、記録的な大雨となりました。



応急仮工事(路肩拡幅)状況【置賜東部線】



実地査定状況【白鷹東部線】

林道においては二年連続の被災を受けた箇所も多く発生しました。また、三箇所で応急仮工事を行つて通行を確保し、置賜東部線においては、

不通となつた県道の迂回路として孤立集落解消に寄与するなど、特徴的な事象が多い状況でした。

査定結果としては、申請した二十五箇所について全て朱入れをいただき、査定額は約二億で査定率は九十八%となりました。

地指導もいただいたほか、県でも市町村の災害復旧事務の支援を行い、連携して取り組んだ成果でもあつたと思います。

また、林野庁整備課による事前現地指導もいただいたほか、県でも市町村の災害復旧事務の支援を行い、連携して取り組んだ成果でもあつたと思います。

査定までの期間を一ヶ月程度短縮しての早期査定となりました。これは、各申請自治体の皆様の頑張りによるものです。

査定官がより適正な復旧となるよう配慮頂きましたが、申請主義なので限界があります。

また、今後の参考に査定時に多くの問答になつた事項を記します。

- ・構造物の根入れは適正か
- ・構造物の法勾配は適正か
- ・法面保護工の選定は適正か
- ・産廃処理施設の選定は経済的か
- ・施工機械の規格は適正か
- ・林道敷はどこまでか

どれも決して難しいことではなく、残ません。現場の状況を理解し自分のものとして、明確に答えられる準備が必要です。

また、査定で終わりではなく、残事業調査、会計検査と審査は続きます。

◆おわりに

この大雨による農林水産関係の被害額は二十三億円に達し、うち森林関係は、林地崩壊七箇所、林道災害七一路線百八十五箇所、計約十一億円を超える被害が発生、特に南陽市、白鷹町で被害が甚大となりました。

◆林道灾害査定

九月十六日から十九日の四日間にかけて第一次林道灾害査定が行われました。昨年と比較すると被災から

◆災害査定雑感

今回の査定に随行して感じたことは、控えめな申請でもいけないとい

うことです。カットを恐れず、被災原因の除去も検討し、最大限適正な申請を目指したいものです。今回は、査定官がより適正な復旧となるよう配慮頂きましたが、申請主義なので限界があります。

また、今後の参考に査定時に多くの問答になつた事項を記します。

・構造物の根入れは適正か

・法面保護工の選定は適正か

・産廃処理施設の選定は経済的か

・施工機械の規格は適正か

・林道敷はどこまでか

どれも決して難しいことではなく、残ません。現場の状況を理解し自分のものとして、明確に答えられる準備が必要です。

また、査定で終わりではなく、残事業調査、会計検査と審査は続きます。

◆おわりに

林地被害は、今後の降雨等により崩壊の拡大の恐れがあるほか、林道施設被害による通行止めは森林施設や生活に支障を及ぼすことなどから、関係市町村や地元住民の方々と力を合わせ、早期復旧を目指し取り組んでまいります。〔県林業振興課〕

「やまがた絆の森プロジェクト」

◆はじめに

県では、県民や企業の皆様に森づくりや自然環境の保全活動に取り組んでいただきため、やまがた緑環境税を活用し「やまがた絆の森プロジェクト」を推進しており、現在、県内二十五箇所で絆の森協定に基づく企業による森づくり活動が行われています。

今回は、「おーばん琴の森」の現地活動レポートと新たな協定の締結についてご紹介します。

現地活動リポート 株「おーばん琴の森」

◆おーばん琴の森

(株)おーばんでは、佐渡ヶ嶽部屋力士のしこ名に付いている「琴」の名を付けた「おーばん琴の森」として、平成二十三年度から尾花沢市内で森林づくり活動を始めました。この活動では、従業員が行う下刈り作業のほか、おーばんの店舗で募集し親子で参加する森林環境学習「元気森もりこども塾」を開催してきました。

今回は、「元気森もりこども塾」の



リポート4

活動を紹介します。今年の第一回目は、五月十七日に開催され、親子十五組約六十名の参加者が地図を見ながらの森林散策を行いました。



七月に予定していた二回目は、周辺にクマが出没したため残念ながら

に楽しみました。特に、綱渡りは子供たちに大人気で、綱から地面に落ちないように注意深く渡り、渡り終えるとすぐに何度も挑戦していました。

参加者は、ルートの途中にある琴の森に関する問題を解いたり、大きな桜の幹周りを自分の体を使って調べたり、木立ちを利用した綱渡りを行ななど、「おーばん琴の森」を存分



その後、カセツトコンロと缶を組み合わせた「簡易炭がま」を使い、持ち寄った材料で花炭を作りました。

木の実などが花炭になると子供たちの歓声が上がりました。

活動後は、おーばん農園で育てた里芋を使い、醤油味の芋煮と佐渡ヶ嶽部屋特製の味噌ちゃんこ芋煮が振舞われ、参加者は秋の味覚を楽しんでいました。

当日は、オオヤマザクラの記念植樹のあと、山形県キャンプ協会の石井、齋藤両先生から木や花の名前を教えてもらいながら森を散策し、ドングリやクリの実、枝などを集めました。

中止になりましたが、九月十七日には親子十五組約五十名が参加して行されました。



出来上がった花炭

り活動を通して地域の森林や動物などの自然生態系の保全に取り組むこととしており、山形市の益山東側の森林十五ヘクタールを対象に地域の方々と、環境学習やボランティア活動を計画しています。

「のんきな殿さま」とは、稻作の土作りを奨励した殿様の言い伝えを基にした山形市農業協同組合のオリジナルキャラクターで、絆の森でも健全な森づくりを通して地域の発展に貢献したいとの思いから名付けたものです。

協定締結リポート 新たに一地区の協定を締結

県では、新たに二件の絆の森協定を締結しましたので紹介します

◆JA山形市“のんきな殿さま”絆

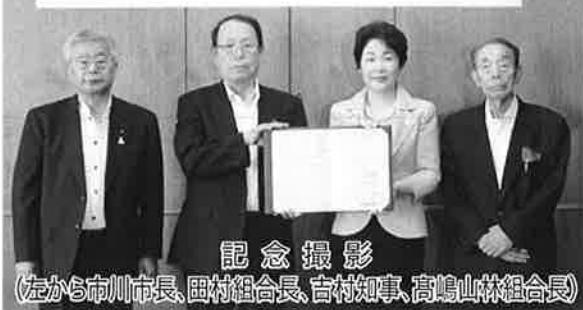


協定書に署名する吉村知事

おーばんでは、今後も親子で森と親しめるフィールドとして琴の森を整備していく予定です。

農業団体としての参加は、このたびの協定が初めてとなりますが今後、農業関係者との連携をさらに進め、豊かな水を生み出す森林を守り、育てる絆の森をさらに広げてきたいと思います。

やまがた絆の森協定締結式 JA山形市“のんきな殿さま”絆の森



記念撮影
(左から市川市長、田村組合長、吉村知事、高島山林組合長)



記念撮影
(左から小川町長、廣瀬県企業管理者)

◆おわりに

今回の協定締結により、「やまがた絆の森」は、三十企業・団体、二十箇所となりました。

県では、今後とも、森づくり活動を通じて企業と地域の方々との交流が深まり、地域の活性化に繋がるよう「やまがた絆の森」を推進してまいります。

[県みどり自然課]

とを目的として、職員自ら森づくり活動を行うもので、十月二十一日にブナの植栽を行いました。来年度からは、委託事業によるスギの間伐も計画しており、水源林の整備を進めしていく予定です。

八月二十二日、山形市農業協同組合と山形市小白川財産区、小白川山林組合、県の四者による絆の森協定を締結しました。

山形市農業協同組合では、森づく

今年の活動は、小白川山林組合と共に十一月に下刈や管理用の遊歩道の整備を行います。また、きのこの植菌体験も予定しています。

◆企業局絆の森
月山仁田山

九月三十日、西川町の月山湖南側の森林約七ヘクタールを対象に山形県企業局と西川町、本道寺地区会、県の四者による協定を締結しました。

県企業局の取り組みは、村山広域水道の水源に位置する森林の公益的機能の維持・向上を図り、水環境を保全する活動の重要性を普及すること



みどりのページ

手作りの「葉っぱのしおり」でおもてなし

◆期日

平成二十六年九月十八日（木）

◆場所

鮭川村立鮭川小学校

◆参加者

鮭川村みどりの少年団員三十八名

◆概要

第三十八回全国育樹祭の併催行事として、全国緑の少年団活動発表大会が鮭川村農村交流センターで開催されました。この全国緑の少年団活動発表大会の参加者をもてなしの心で迎え入れようと、開催地である鮭川村みどりの少年団の六年生団員が、



「どの葉っぱを使おうかな～」

次に、全国育樹祭のシンボルマークやトトロの木の愛称で親しまれている小杉の大杉などのスタンプを押した台紙に、団員ひとりひとりが「ようこそ鮭川村へ」「さけがわのキノコはおいしいよ」など心のこもったメッセージを書き入れました。



台紙と葉っぱをフィルムに挟んでいきます

しおり作りは、まず、モミジの葉っぱを事前に採取して押し葉にしました。モミジを選んだ理由は、鮭川村の木がモミジであること、そして同校の校庭にはとつても綺麗な葉っぱを付けたモミジの木が立派に生育していることからです。

最後に、メツセージ入りの台紙と押し葉にしておいたモミジの葉っぱと一緒にラミネートし、約三百枚のしおりを完成させることができました。そしてこの「葉っぱのしおり」は、全国緑の少年団活動発表大会の参加者全員に配布されました。



◆期日
平成二十六年十月一日（水）
◆場所
札幌市 KKRホテル札幌

平成二十六年度東北・北海道地区緑化推進協議会において緑化功労者の表彰式が行われ、山形県からは、「山形県緑を育てる女性の会」が表彰されました。

当会は、源流の森内に「女性の会緑の森」を造成し、植栽や下刈り等の保育活動を毎年実施しています。

最後になりましたが、ご協力をいたいた関係者の皆様に感謝を申し上げます。

また、研修会や交流会を通じて会員の研鑽に努めるとともに、県や林

平成二十六年度 緑化功労者の表彰について





みどりのページ

◆期日

平成二十六年
九月二十日（土）

◆場所

NDソフトスタジアム

◆周辺

高校生による緑の募金活動



業関係団体と連携・協力のもと緑化活動を実施しています。
一方、毎年春に実施している緑の募金街頭キャンペーングでは、募金活動の協力団体として緑の募金の普及啓発に多大な貢献をしているなど、その功績が高く評価されました。

当会の功績に敬意を表することともに、引き続きの活躍をご祈念申し上げます。

この日は、六名のボランティア委員が参加し、モンティオ山形のホームページゲームの開催に合わせて緑の募金活動を行いました。また、開催間近となった第三十八回全国育樹祭のPR活動も併せて行い、全国育樹祭の機運を高めることができました。今後も高校生や緑の少年団員などと一緒にになって緑の募金活動に取組み、緑の募金の普及啓発に努めて参ります。



〔公財〕山形県みどり推進機構

◆概要

今年四月に高校の再編により誕生した県立村山産業高等学校にはボランティア委員会があり、様々な奉仕活動を行っています。

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H26. 8. 1~9. 30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

青山建設(株)、曙ブレーキ山形製造(株)、旭自動車(株)、(株)朝日測量設計事務所、(株)安部組、荒生木材(有)、有賀建設(株)、(株)伊藤造園土木、(株)イヨテクニカル、(有)入野商会、(有)エコファーム長井、(株)エフエム山形、(有)遠田林産、(有)遠藤建機、オイルケミカルサービス(株)、尾形興業(有)、(株)小川建設、(株)沖田木材産業、(株)カキザキ、笠原建設工業(株)、(株)カナン、(株)環境管理センター、ガラスやいせや、(株)菊地建設、工藤石油店、(株)工藤測量設計、(有)くまがい、(株)黒田組、(株)ケンコン、小林防護工事(株)、(株)小松建設、(株)コヤマ、(有)後藤クリーン商会、(有)後藤竹材店、(株)斎藤板金工業所、(株)寒河江技術コンサルタント、鮭川工業(株)、(株)佐藤組、(有)山栄測量設計、(株)三和、山和建設(株)、(株)ザオ一測量設計、(株)下山製材、(有)庄司林業、伸栄伝導機工(株)、新和設計(株)、(株)ジャワ商会、城北電気工事(株)、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、西部サッシ、(株)成和技術、ソック(株)、(株)丹野、(株)大和エンジニア、(株)千歳建設、(有)ツチヤクリーン、鶴岡ガス(株)、鶴岡市農業協同組合、(株)テトラス、天神森調剤薬局、(株)出羽測量設計、(株)トーホー、(株)東北工材、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、(株)内外ビルクリーン、(株)沼澤工務店、ハイメカ(株)、ヒミヤ石油工機(株)、藤庭園、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、文化清掃(有)、(株)北都測量設計、マックル(株)、(株)丸江製作所、(株)マルカ、(株)マルコウ環境、マルミツ産業(株)、ミクロンメタル(株)、ミドリホクヨー(株)、(株)ムラヤマ、(株)メカニック、(株)もがみ木質エネルギー、(有)安野測量事務所、山形アポロ会サトウ石油(株)、山形ウッドエネルギー、(株)山形銀行県庁支店、山形県商工会連合会、山形県森林土木建設業協会、山形県測量設計業協会、山形県畜産協会、山形県中小企業団体中央会、山形県土地改良事業団体連合会、山形信用金庫、(株)モンティオ山形、山形中央観光(株)、(株)山形道路、山形富士電機(株)、山形木造住宅プレカットシステム、山形緑十字(株)、(株)山口工務店、(有)山口製材所、山新建装(株)、山田建設(株)、(株)ユアシス、ロータス山形(株)

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

労働安全衛生規則の改正に伴う規制強化について

◆はじめに

林業における全国の労働災害の発生状況は減少傾向にあるものの、依然として伐木作業中の災害が多く発生しております。他産業と比較すると、労働災害発生率は高い水準となっています。

また、林業現場においては、伐木、造材、集材等の作業を行う機械（車両系木材伐出機械）が用いられており、近年、車両系木材伐出機械の多様化・高度化が進められています。

こうした中、車両系木材伐出機械を原因とする休業四日以上の死傷労働災害が増加している一方で、その特性に応じた労働災害防止措置は設けられていました。

そこで、厚生労働省では平成二十五年十一月公布の「労働安全衛生規則の一部を改正する省令」に、車両系木材伐出機械等の労働災害防止のための措置を規定し、新たな義務が適用されることになりましたので、お知らせします。

◆規制強化の内容

1 危険防止設備の設置

車両系木材伐出機械（伐木機械、

走行集材機械及び架線集材機械）を用いた作業による危険を防止するため、次の規定が追加されました。

走行集材機械（フォワード・スキッダ・トラクターなど）

① 伐木等機械
グラップル・ハーベスター・プロセッサ・フェラーバンチ
ヤなど

② 走行集材機械
材車・集材用トラクターなど

③ 簡易架線集材装置等
ダ・スイングヤードなど



- ① 前照灯の設置
必要な照度が保持されるる場所での作業を除き、前照灯を備えた機械を使用しなければならない。
- ② ヘッドガード
原木等の落下により運転者に危険を及ぼすおそれがないときを除き、堅固なヘッドガードを備えた機械を使用しなければならない。
- ③ 防護柵等
原木等の飛来等により運転者に危険を及ぼすおそれのあるときは、運転者席の防護柵等を備えた機械を使用しなければならない。

2 特別教育規定の新設

◆規定の適用開始日
危険防止の設備の設置については、平成二十六年六月一日から施行されており、ハーベスター、プロセッサ、グラップル等の伐木機械、フォワード、スキッダ等の走行集材機械、タワーヤード、スイングヤード等の簡易架線集材装置には危険防止設備の設置がなければ使用できなくなりました。

ただし、施行期日より前に使用されていた車両系木材伐出機械については、平成二十六年十一月三十日まで猶予期間が設けられており、平成二十六年十二月一日からは、全ての機械にその規定が適用されることになります。

また、特別教育を修了した者でなければ、平成二十六年十二月一日から、運転業務に就くことができなくなりますので、御注意ください。

また、特別教育を修了した者でなければ、平成二十六年十二月一日から、運転業務に就くことができなくなりますので、御注意ください。

◆おわりに

労働安全衛生規則は、林業労働災害の防止のための最低基準として規定されているものです。

事業者のみなさんは、規定の遵守に加え、作業内容等によって、個々の判断で安全対策を施す必要があります。

安全な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて、労働者の安全と健康を確保するよう取り組んでくださいますようお願いします。

〔県林業振興課〕

※車両系木材伐出機械の運転業務に関する特別教育の問い合わせ先

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

【電話（〇二三）六六六一四八一〇】

森林共同施業団地における民国連携による 低コスト作業システム研修会の開催について

◆はじめに

村山総合支庁では、昨年度に締結しました「村山地域森林整備推進協定」により、寒河江市及び村山市内に設定している「森林共同施業団地」内の「民国連携研修エリア」において、山形森林管理署などと連携して、

約千三百ヘクタールを「森林共同施業団地」に設定、さらに団地内に「民国連携研修エリア」を設定し、民国連携による効率的な路網の整備や高性能林業機械を活用した低コストの森林整備を目指すこととしております。

◆低コスト作業システム研修会

山形森林管理署、山形県林業・木材産業再生協議会との共同で、「民国連携研修エリア」を中心に、施業の

平成二十五年十一月二十六日に、山形森林管理署、山形県林業公社及び村山総合支庁の三者で「村山地域森林整備推進協定」を締結しました。

協定の対象地域は、村山地域の国

集約化、路網の整備及び高性能林業機械の導入促進による収益性の高い作業システムの構築のための研修会を開催しました。

開催日 平成二十六年八月二十六日

まず、国有林施業箇所において、森林作業道と列状（搬出）間伐の手法等について、考え方や施工時、施工後の差異や改善点などについて検討を行いました。

●現地研修

次に林業公社社員において、立木の伐倒作業とバケット作業及びグラップル作業を行いました。



◆おわりに

講師の東北森林管理局森林整備部

資源活用課の一ノ宮秀和企画官から、

「低コスト作業システム構築のため



の森林作業道と作業システムの基本的な考え方についての説明に続き、(有)庄司林業さんと(株)山形環境荒正さんから現場での取組の紹介、山形森林管理署管内における森林作業道の施工事例の検討を行いました。

まず、国有林施業箇所において、森林作業道と列状（搬出）間伐の手法等について、考え方や施工時、施工後の差異や改善点などについて検討を行いました。

次に林業公社社員において、立木の伐倒作業とバケット作業及びグラップル作業を行いました。

からは、使い勝手や作業のコツ、刃の強度や性能林業機械「フエラーバンチャザウルス回ボ」によるデモンストレーションの実演を行いました。

実演と活用方法の検討などを行いました。

参加者は、森林整備の取組みを含め、森林整備課と連携した取組みを含め、森林整備の低コスト化を推進してまいります。



有林、県営林、公営林、公社林の約八万三千ヘクタールで、このうち寒河江市と村山市にまたがる

- 室内研修
- 講師の東北森林管理局森林整備部資源活用課の一ノ宮秀和企画官から、「低コスト作業システム構築のため

の森林作業道と作業システムの基本的な考え方についての説明に続き、(有)庄司林業さんと(株)山形環境荒正さんから現場での取組の紹介、山形森林管理署管内における森林作業道の施工事例の検討を行いました。

まず、国有林施業箇所において、森林作業道と列状（搬出）間伐の手法等について、考え方や施工時、施工後の差異や改善点などについて検討を行いました。

次に林業公社社員において、立木の伐倒作業とバケット作業及びグラップル作業を行いました。

からは、使い勝手や作業のコツ、刃の強度や性能林業機械「フエラーバンチャザウルス回ボ」によるデモンストレーションの実演を行いました。

実演と活用方法の検討などを行いました。

参加者は、森林整備の取組みを含め、森林整備課と連携した取組みを含め、森林整備の低コスト化を推進してまいります。

森林環境学習のための森づくり ～学校林環境学習推進事業の事例から～

◆はじめに

県では、小学生等が学校や様々な学習の中で森や自然に親しみ・学ぶ活動を支援しています。ここでは森林研究研修センターが行っている

「学校林環境学習推進事業」の事例から、学校林の整備と活用について考えます。

◇学校林環境学習推進事業

当センターでは、学校における森林環境学習の推進と定着を図るため、学校林（授業等で使う地域の学習林も含む）を使って、教職員やPTA等を対象に、森林環境学習のやり方を伝える事業を実施しています。

◇学校林の現状

学校林は昭和二十五年ごろから将

◇金山町立明安小学校の事例

金山町立明安小学校所有の学校林

は、学校から歩いて十分くらいの場所にある約一ヘクタール、二十年生前後のスギ人工林です。当センター

では、山形大学農学部林田光祐教授の指導のもと、この学校林で、下層

の広葉樹を活用した森林環境学習の実施を目的に選択的刈り払いによる

財産の形成を目的に、多くの学校に設置されてきましたが、近年の建築事情の変化や国産木材価格の低迷等により本来の意味合いが薄れ、伐採利用されない学校林が多くなっています。近年では、学校が周辺の里山林や森林公園を、環境教育や教科教

育、課外活動などのフィールドとするケースもあることから、もともと学校の施設である学校林を、この様な目的で活用することは、とても意義のあることと考えます。

ただ、しばらく使われることが無かつた森林は、ヤブ化して、安全な場所とは言えません。また、学校の建替え等を目的に設置された学校林は、スギやマツ類などの針葉単層林が多く、実施する森林学習や課外活動の内容も限定的になります。本事業では、学校林の安全な学習環境を整備するとともに、スギの学校林でも、多様な環境学習プログラムの実施が可能となる整備方法を試行したので紹介します。

◇その他の学校林での事例

この整備により、明安小学校林で

は約五十種の広葉樹種を数多く残す

ことができ、それによりスギ林でも

いろいろな森林環境学習を行うこと

ができました。この内容や効果につ

いては、東北森林科学会誌面で「報

文・選択的刈り払いによる森林整備

効果と森林学習の実施による検証－

山形県金山町立明安小学校学校林を

事例として－（高橋ら2014）』で詳細

林田教授による「選択的刈払い」の指導状況



森林整備を実施しました。「選択的刈り払い」とは、あるサイズ以下の低木・草本類をすべて刈り払うのではなく、種やサイズを考慮しながら、残して生育させるか刈り払うかを一本選別しながら刈り払う方法で、養父志乃夫著「荒廃した里山を蘇らせる自然生態修復工学入門」で紹介されています。

◇その他の学校林での事例

高畠町立高畠小学校のアカマツの

学校林では、アカマツの下層に様々

な広葉樹が生育していましたので、

林内で児童が安全に散策できる観察

路を作設し、多くの広葉樹に触れる

ことができるよう整備しました。

鮭川村立鮭川小学校のスギ学校林

の活動でも、ヤブ化した学校林の刈

り払いを森林組合に委託した時、事

前に林内の広葉樹にマーキングし、

簡易な選択的刈り払いを行うことで、

児童のスギの間伐と枝払い体験の合

間に、特徴的な広葉樹を紹介することでできました。

◇おわりに

当センターでは、森づくり活動報

告会や様々な誌面等の媒体で、学校

林活用事例の紹介や報告を行ってい

ます。このことが、森林環境学習の

推進に繋がることを期待します。

県立高校初！木質ペレットボイラーエネルギー導入

村山産業高校の再生可能エネルギー施設について

◆はじめに

山形県では、再生可能エネルギー及び代替エネルギーによる「電力」と「熱」の地域分散型の供給体制を整備するとともに、地域内での統合利用の普及を促進し、省エネルギーの地産地消と災害に強いシステム構築を進めるために、県及び市町村関係施設等の公共施設へ率先導入することとしております。

このたび、村山産業高校に分散型の熱源・電源として木質バイオマス、雪、太陽光の再生可能エネルギーを有効活用した環境にやさしい施設が整備されましたので紹介します。



ペレットボイラービル（エネルギー棟）

◆村山産業高校の概要

村山産業高校は、村山農業高校と東根工業高校を統合し、平成二六年四月に開校しました。

これまでの農業科、工業科に新たに商業科を加えた三学科で、この三学科の実習室として既存の農業実習施設等を解体し、跡地に新たに「産振校舎」が建設され、校舎の暖房・冷房エネルギーを供給するため、環境負荷の少ない木質ペレットボイラーアイ等が導入されています。

◆施設の概要

○ペレットボイラーラー

- ・矢崎エナジーシステム(株)製
- ・木質ペレット焚吸式冷温水発生機「アロエース」
- ・CH-KP-30PS-ST 三基
- ・冷房能力・一〇五・五kW
- ・暖房能力・八三・四kW
- ・燃料消費量（年間）…試算

内訳
冷房…一一・六ト
暖房…五五・〇ト

・ペレットタンク
・容量…六・〇m³（約三ト）三基

○雪室

・収容量…約二八〇m³

○太陽光発電設備
・太陽光パネル…二四〇枚

・太陽電池容量…六〇kW

校舎の一階から三階までの廊下等のスギ材の使用量は、九四・八m³（うち県産材は六一・八m³）となっています。

天井はスリット状になっており、

配線・配管等が隙間から見えますが、デザインとして工夫され、圧迫感もない見事な使い方となっています。



建屋内のペレットボイラーラー

◆導入機械の特徴

ペレットボイラーラーによる冷暖房は、産振校舎の各実習室（冷房は一部の室九室）となっています。

エネルギー効率では、木質ペレット直焚燃焼により、従来のペレットボイラーより温水焚冷温水器の組み合せ比では約二倍の高効率化を実現しております。

◆その他の施設

これらエネルギーを利用する「産振校舎」の廊下の壁・床・天井等には、木材がふんだんに使用されてお



内装木質化した廊下

◆おわりに

導入したペレットボイラーラーについては、これまでトラブルもなく順調に稼働しております。

この先進的な事例が今後、他の学

校施設にも広がり、地域の豊かな森林資源の有効活用につながるようになります。

〔村山総合支厅森林整備課〕

もがみ薪ステーションの取組みについて

◆はじめに

最上総合支庁では、地域の豊富な森林資源を活用し、木質バイオマスのさらなる利用拡大及び「木質バイオマスなら山形県最上地域」の確立を目指して、さまざまな取組みを進めています。これまでに木質チップ

ボイラーや、最上町のウエルネスプラザや最上総合支庁などの公共施設等の大規模事業所を中心に地域で十三基が導入されるなど、一定の成果を上げております。

また今年度は、小規模事業所向けに薪ボイラーの導入促進に取り組んでいるほか、管内でも薪ストーブ導入により薪の需要増加が予想されることから、薪の利用拡大に向けた事業を実施しております。

このよう中、九月から「薪ステーション」の取組みを開始しましたので、その内容等をお知らせします。

なおこの取組みは、地球温暖化防止だけでなく、森林整備の促進や地域経済の活性化を図ることを目的に実施しております。

◆薪ステーションとは

薪ステーションとは、西日本を中心全国三〇か所以上で実施されている「木の駅プロジェクト」を元にした取組みです。

取組みの主な流れは、次のとおりです。

① 森林所有者等が森林整備により発生した間伐木や林地残材等を決められた土場（薪ステーション）

まで軽トラック等で搬出

② 搬出量に応じて、地域の商品券で材を買取り

③ 集まつた材は、薪用のほか木質チップ燃料用として販売

- 買取り単価
・ 軽トラック一台当たり
・ 針葉樹…二千五百円
・ 広葉樹…五千円
- 材の受け入れ場所
・ 室川町商店街協同組合商品券のどちらか希望する券で買取り
- 材の受け入れ日、時間
・ 原則週二回（水曜日・土曜日）
- 受入れ時間
・ 午前九時から午後四時まで
- 材の販売
・ 原則週二回（水曜日・土曜日）
- 材の搬入
・ 十二月上旬まで受入れ



モデル実験により様々な課題等が明らかになるものと考えております。

モデル実験後は、課題の整理等を実施したうえで、年度末に報告会を開催し、成果等の情報を広く発信する予定です。

今後も、薪ステーションの内容等を改良しながら実施し、木質バイオマスの更なる利用拡大を図りたいと考えています。

〔最上総合支庁森林整備課〕
今後も、薪ステーションの内容等を改良しながら実施し、木質バイオ

マスの更なる利用拡大を図りたいと考

- 主な対象区域
金山町・真室川町
- 対象者
登録をした森林所有者等

○ 受け入れる材の規格

森林整備により発生した間伐木

◆今後の取組み
（最上総合支庁森林整備課）
電話〇二三三一九一三五二
までお問い合わせ願います。
おそらく初の取組みであり、今回の

〔最上総合支庁森林整備課〕
考

育林交流集会併催行事 ～ウッドフェスタ in Okitama を開催～

「ウッドフェスタ in Okitama」が第三十八回全国育樹祭併催行事『2014育林交流集会』と連携し、十月十一日（土）に飯豊町市民総合センター「あす」屋外広場で開催されました。このイベントは、置賜の自然環境の恩恵に感謝するとともに、木とのふれあいや各種体験を通して、多くの方々に木の良さを知つていただくことを目的に飯豊町と置賜林業推進協議会等が主催しました。

会場には①簡単組立椅子やコルクボード、スゲ織りコースターの製作、木のプール、積み木、段ボールでの遊びなどの木とのふれあい体験コーナーや②薪・ペレットストーブ、ゴザ織り機などの展示コーナー③米粉製品、山菜きのこのなどの販売や焼きそばなどの屋台コーナーなどが設けられると共に、模擬上棟式や餅ふるまい、緑のプレゼントなど盛りだくさんのイベントで会場は大いに盛り上がりました。

その他にも、いいで型環境

共生モデル住宅の見学会や地方自治法六十周年を記念した五百円硬貨の釣銭としての使用なども行われました。



振動障害特殊健康診断並びに蜂アレルギー抗体検査を実施します!



平成26年11月11日(火) 三川町公民館（三川町大字横山字西田52-1）
11月20日(木) 鈴木内科医院（村山市楯岡新町三丁目24-3）
11月27日(木) アクティー米沢（米沢市西大通1丁目5-5）
12月11日(木) 山形森林総合センター（山形市替所14-2）

お問い合わせは 林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部
TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味
トンビマイタケ菌床 庭先でも栽培
まいたけ 槗木 できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他



山形県の古木・名木 121

三吉山の 三吉スギ

土生田の飯田山渓永寺の裏山に三本に並列して幹別れしたスギがあります。その形状が名の由来と言われていますが、残念ながら一本は昭和五十四年三月三十日の台風により失われています。

**さくらの保育園・
白鷹町子育て支援センター「にこぽーと」**

公共木造施設 85

白鷺町大字鮎貝

白鷺町子育て支援センター「にこほーど」

完成年度 平成24年度

延床面積 1,790.0m²

(保育園1,277.29m²、支援センター512.71m²)

構 造 木造平屋建て

特徴 白鷹町の子育て拠点として平成25年4月にオープンしました。保育園では、0歳児から5歳児までの園児を預り。子育て支援センターでは、入園前の幼児が保護者に付き添われ楽しんでいます。センター内には、小学生の児童クラブがあり、放課後の学習や遊びの場となっています。

屋根には斜めと垂直の太陽光発電パネルを設置し、災害時用の蓄電池が保育園とセンターに計2基設置されています。

火気を使わないオール電化施設で、ヒートポンプ温水床暖房システムにより園児等が冬期も暖かく過ごせる施設です。

左側「にこぽーと」 右側「さくらの保育園」



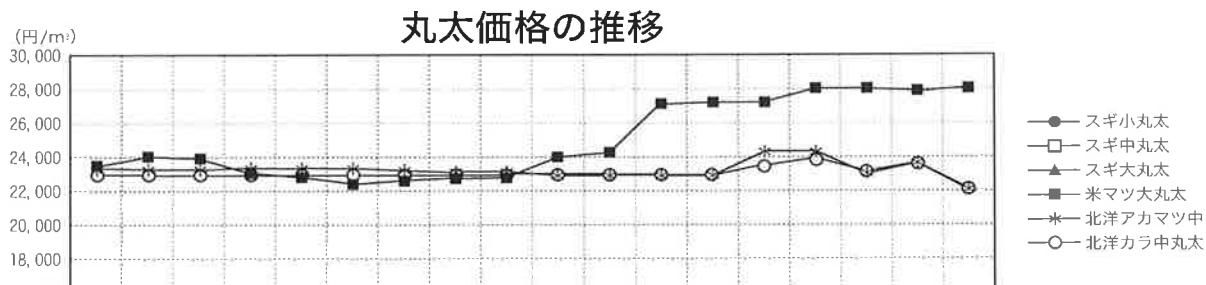
みどりの財産を次世代に引継ぐために

公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>



“森林を整備・利活用するには
「林道施設」が必要です”

“土砂災害を防止・軽減するためには
「治山施設」が必要です”

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川 隆志

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454